

資質向上のためのセルフチェックシート 【 養護教諭 】

所属		記入年月日	令和 年 月 日
氏名		記入年月日	令和 年 月 日

キャリア・ライフステージ	実践力の発展期
年齢・教職経験年数(目安)	38歳～47歳 ・ 16～25年
目指す教員像	中堅としての役割と責任を自覚し、同僚教員の資質向上を支援しながら、校内外に広く目を向け、関係者と連携して学校運営を牽引している。
岩手の基本研修	ステージアップ研修<前期>(45歳～)

資質向上に関する指標	自己評価 ※							
	(①基本研修時)				(②年度末)			
	4	3	2	1	4	3	2	1
1 教員としての素養								
自ら学び続ける意欲・探究心	・全ての児童生徒の可能性を引き出すため、「個別最適な学び」「協働的な学び」など「令和の日本型学校教育」を理解するとともに、時代や社会の変化、キャリア・ライフステージに応じて求められる資質を高めながら、自立的に学び、探究する姿勢をもち続けている。							
教育的愛情、人権意識	・教員としての使命や責任、岩手の教育を担う一員であることを深く自覚し、教育への情熱と誇り、高い倫理観を持っている。また、岩手の未来を担う児童生徒の生命を尊重し、自ら、そして組織におけるコンプライアンスの徹底に取り組んでいる。							
教育的愛情	・教育に携わる者として児童生徒に対する深い愛情を持ち、真剣に向き合っている。また、「子どもの権利条約」や「こども基本法」などの理念を踏まえ、人権尊重の意識を身に付けている。							
豊かな人間性	・豊かな人間性を持ち、社会人としての常識や幅広い教養を身に付けている。							
コミュニケーション力	・学校内外の様々な背景・価値観を持つ人々との対話を通して、円滑なコミュニケーションを図るとともに、チームとして課題解決に取り組むことの重要性を深く認識している。							
課題に立ち向かう力	・心身共に健康で、様々な状況でも感情をコントロールしながら、忍耐力とチャレンジ精神を持って、新たな教育課題を含む様々な課題解決に取り組んでいる。							
2 養護教諭の専門領域における職務								
保健管理	・発生しうる危機と回避する手立てを想定し、学校運営に具体的に反映させながら、組織的な保健管理を行っている。							
保健教育	・教科や個別指導と関連付け、学級担任や教科担任に働きかけながら、教育活動全体を通じて保健教育を牽引している。							
個別の保健指導、健康相談	・校内体制を整備し、児童生徒の組織的な支援を進めながら、健康課題の早期発見、早期解決を牽引している。							
保健室経営	・保健室経営計画の具体的な方策を学校経営と関連付け、保健活動を活性化させている。							
保健組織活動	・保健組織の中核的存在として、学校保健委員会など保健組織活動を牽引している。							
3 生徒指導力								
発達支持的生徒指導	・多様性に配慮した児童生徒理解に基づき、集団指導と個別指導相互の調和を図った生徒指導に向けて同僚を支援するなど、学校全体の発達支持的生徒指導を牽引している。							
いじめ等の問題行動・不登校等への対応	・いじめ等の問題行動・不登校等の解決に向け、指導計画の策定や児童生徒への指導、関係機関との連携等に関し中核的役割を担い、学校としての対応を牽引している。							
教育相談	・スクールカウンセラーや同僚と指導方針を共有し、教育相談を分担するなど、組織的な教育相談を牽引している。							
4 マネジメント力								
学校組織における連携・協働	・同僚の業務を支援するとともに、学校内外の動きを考慮しながら、評価・改善の視点を持って各種業務を推進している。							
危機管理	・危機を察知した際は、関係機関と適切に連携をとり主体的に行動するなど、危機対応を牽引している。							
関係者等との連携・協働	・関係者と連携した教育活動の際、積極的に調整役を担っている。							
5 復興教育の視点								
	・地域の実情・課題に応じて、学校全体の教育活動と関連付けながら、児童生徒が、家庭や地域、関係機関・団体等と協働して、震災の経験や教訓を学ぶ機会を設定するなど、学校としての復興教育を牽引している。							
6 キャリア教育の視点								
	・家庭、地域、企業、関係機関との連絡・調整に関する中核的役割を担い、校内外の関係者と協働しながらキャリア教育を牽引している。							
7 特別な配慮や支援を必要とする児童生徒への教育の視点								
特別支援教育	・学校が組織的に行う校内支援体制の整備について、関係機関と連携協働しながら牽引している。							
多様性への配慮	・多様性への配慮に関する見識に基づき、特別な配慮や支援を必要とする児童生徒の特性等を理解して、学習上・生活上の支援に向けた組織的な取組を牽引している。							
8 ICTや情報・教育データの利活用の視点								
	・学校におけるICT活用の意義を理解し、授業や校務等での積極的・効果的な活用を図るとともに、児童生徒の情報活用能力(情報モラルを含む。)を育成するための授業実践等を行っている。							
	・幅広く教育データを活用し、自らの指導の改善と、児童生徒の学習の改善を図ることで、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現に取り組んでいる。							

※「自己評価」 4:よく当てはまる 3:どちらかというと当てはまる 2:あまり当てはまらない 1:当てはまらない

自己の資質向上のために今後取り組みたい事項、伸ばしたい力 等	※ 備考欄
--------------------------------	-------